

「平成30年度筑豊地区明るい選挙推進事業担当者研修会」事業報告

- 1 事業名 平成30年度筑豊地区明るい選挙推進事業担当者研修会
- 2 期 日 平成30年9月18日（火）
- 3 参加者 54名
- 4 日 程

| 時 程 | 内 容 |
|-------|---|
| 13:20 | 受 付 |
| 13:40 | 開会行事 |
| 13:50 | 研修1〈実践発表〉 「我が校の主権者教育」 福岡県立嘉穂東高等学校 指導教諭 益田 和毅 氏 |
| 14:25 | |
| 14:35 | 研修2〈講話〉 「学校教育に期待する主権者教育」 中村学園大学短期大学部 講師 橋本 一雄 氏 |
| 15:35 | |
| 15:45 | 閉会行事 |

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、嘉穂東高等学校の益田指導教諭による実践発表を実施しました。高校1年生から3年生まで系統的にカリキュラム化された実践が発表されました。特に高校3年生での「政策立論型ディベート」の実践では、論題に対し、生徒が証拠を示しながらディベートを体験する様子がわかりました。

(2) 活動写真



講話を聞く参加者の様子



実践発表をする益田指導教諭

(3) 参加者の声

- 嘉穂東高校での実践が益田先生の熱い思いもあって、年々充実してきている様子が伺えました。議員との座談会、どのような交流になるのか子どもたちの姿を考えただけでもワクワクします。

- 自分が学生であった時代よりも、ディベートを交えた授業などバリエーションに富んだ内容になっていることに驚きました。
- 最初の入り口を示すことは大切であり、考え方、取り組み方を指導するのも大切だと思いました。

研修2

(1) 内容

研修2では、中村学園大学の橋本講師による研修1での高等学校の実践と、現代の若者の選挙意識をつなげた講話を実施しました。まず、大学における主権者教育の現状と課題について説明を行いました。その後、学校教育における主権者教育は政治的中立性があることに触れ、最後に学校教育に期待する主権者教育をまとめました。参加者は、若者の選挙や政治に対する現状について理解を高めていきました。

(2) 活動写真



講話を聞く参加者の様子



講話をする橋本講師

(3) 参加者の声

- 政治は自分ごととできるかどうかだと思います。それを引き出すのが教育であることを改めて感じました。
- 学びがいつ起こるのかは「教えようとする力」と「学ぼうとする力」が均衡になる時という講師の先生の言葉が印象に残りました。
- 選挙にいきたいと思う心呼び起こす教育という言葉が印象に残りました。

6 全体をとおして

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、学校教育における主権者教育の重要性が高まりつつある中、今回、高校・大学の教職員からも7名の参加がありました。さらに、管内市町村の選挙管理委員会、明るい選挙推進協議会、政治学級、教育委員会、そして福岡県明るい選挙推進協議会からの参加もあり、それぞれの立場から幅広い感想が出されました。橋本講師から、最後に学校教育に期待する主権者教育として、「主権者教育とは、正しい知識や価値観の教え込みではない」ということをバーナード・クリックの言葉を借りて伝えられ、この言葉が多くの参加者の心に残ったようでした。参加者にとって子どもの発達段階に応じた教育方法の確立が、今後必要不可欠だということを学ぶことができた研修会となりました。